

共通科目「比較思想」(丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業)

トクヴェイルでデモクラシーを考える

松本礼二

二〇一三年度前期の公開授業「比較思想」は四月二十五日から七月二日まで、毎週月曜二限に行われた。テーマは「トクヴェイルでデモクラシーを考える」。アレクシ・ド・トクヴェイルの『アメリカのデモクラシー』(松本礼二訳、岩波文庫、第一巻上下、第二巻上下、全四冊)を教材として、その内容を歴史的文脈に即して解説した上で、現代のデモクラシーの諸問題を考えるヒントをそこから引き出すことを主眼とする講義である。

この作品がアメリカあるいは近代デモクラシーを考える古典として有する意義については言うをまたない。とはいえ、二〇〇年近く前の著作である。一九世紀前半、ポスト革命期のフランスを生きた青年貴族が一八三〇年代のアメリカを観察して、フランスの将来を占おうとした思索を十全に理解するためには、歴史状況についての知識が不可欠である。家系的背景を含む伝記的事実、著者の負った知的伝統、一七八九年の革命に発して変転絶えない政治社会の激動、直接の考察対象たるジャクソン期アメリカ社会の現実、そしてアメリカ革命と合

衆国の建国以来、海の彼方の共和国に持続的関心を払ってきたフランスにおけるアメリカ論の系譜など。今日の読者にとって自明とは言えないこれらの歴史的背景を説明した上で、本講義は『アメリカのデモクラシー』の構成に即して、その内容を順次検討した。

トクヴェイルのデモクラシー論は一九世紀前半のヨーロッパ、デモクラシー勃興期の歴史状況に深く関わる中で形成されたものである。同時に、デモクラシーのその後の展開を見通し、キリスト教世界の未来を見定めようとするものでもあった。実際、トクヴェイルの死後一五〇年のデモクラシーの大きな展開は、『アメリカのデモクラシー』の予言的側面をますます明らかにし、この古典的テキストに新たな光を当てることとなった。大衆民主主義の拡大と全体主義の台頭、米ソの冷戦と「二つの民主主義」の対立、福祉国家の形成と行政国家の肥大といった二〇世紀の世界を特徴づける諸現象に照らして、この書は繰り返し再解釈され、新たな意味がこれに付与された。グローバル化の進む今日、『アメリカのデモクラシー』への関心は、トクヴェイル自身が

想定した読者世界、フランス、アメリカ、イギリス、いやキリスト教ヨーロッパ世界全体をさえ超えて広がる。福沢諭吉がトクヴィルに学んで「政権」の集中は国家の独立に不可欠だが、「治権」の集中は国民の活力を奪うと論じた明治初年以來の受容の歴史を有する日本は、非ヨーロッパ世界へのトクヴィル伝播の早い例である。著者自身日本について何の知識もたず、何一つ語っていないにもかかわらず、日本のデモクラシーを考えるヒントさえ、読み方次第で豊かに引き出せるテキストといつてよい。

本講義は、一九世紀の歴史的文脈の中で著者の意図に即してテキストを読み解いた上で、その後のデモクラシーの展開との関連で『アメリカのデモクラシー』がどのように読まれてきたかを振り返り、さらに現代のデモクラシーを考えるヒントをそこから引き出すことを目指したものである。たとえば、第二巻第三部（八一―二二章）でトクヴィルが展開する女性論、家族論はヴィクトリア時代のアングロ・サクソン社会の家族とフランスのそれとの比較としても、近代家族の類型化の早い試みとしても興味深く、現代の家族社会学や家族と女性の社会的研究の先駆として実際高く評価されるものである。同時に現代のフェミニズムやジェンダー論の意味を考えるためにも、トクヴィルの視点と立ち位置の批判的考察は有益な示唆を与えるであろう。同じく、第二巻第三部末尾の数章における軍隊・戦争論はトクヴィル自身明示しているように、当時のアメリカは考察の対象の外であり、フランス革命戦争とナポレオン戦争を素材とする理論的考察であるが、第一次

世界大戦以後の総力戦や、「全体戦争」、米国における「軍産複合体」の形成など、戦争と革命の二〇世紀を考える材料をも提供している。

以上のように、本講義は『アメリカのデモクラシー』という古典を題材に、テキストを内在的に理解した上で、われわれ自身が今日の問題を考えるヒントをそこから引き出す「発見的な *heuristic*」読み方へ誘うという、いささか欲張った試みであった。私自身の力不足もあって、こうした意図が十分に伝わり、聴講者を満足させ得たか、自信はない。なによりも、『アメリカのデモクラシー』は大著であり、内容も豊かであるだけに、一回九〇分、全一四回の授業ではすべてを尽くすには無理があり、題材の取捨選択を余儀なくされた。量的な問題だけではない。トクヴィルはマルクスやウエーバーのように普遍的体系的な理論構築を目指すというより、時代の緊急の問題に個別具体的に取り組む中で考察を深めていったタイプの思想家である。トクヴィルのデモクラシー論を単純明快な形で要約的に示すことは不可能であり、あくまで個々の問題についての叙述に即して、彼の思索の跡をたどらねばならず、それは当然に多くの説明を要し、費やす時間も長くなるを得ない。

以上は本講義の主題と方法、そして講師の能力自体に由来する限界であるが、それとは別に、「公開講義」にともなう困難も感じた。この点はこの公開講義をこれまで担当した講師の誰もが感じたことであろうが、学外から公募に応じて参加した聴講者は概して年齢が高く、人生経験も職業経歴も豊かであるように思われた。現役の学生諸君と

は知的関心のあり方も、知的蓄積も大きく異なるのが当然であり、どちらに焦点を合わせて喋るべきか、毎回迷わされるところがあった。本講義とほぼ同じ主題について、ほぼ同じやり方で講義した経験は、本属の早稲田大学でも、また他大学で非常勤講師を務めた際にも何度かあり、また「市民大学」と呼ばれるような講義形態で、同じ主題を扱ったこともあるが、聴講者の性格がそれぞれ別であれば、同じことを扱っても別の喋り方が可能である。本公開講座のように、異なる性質の聴講者に同時に講義するには工夫がいるように感じられた。事後の感想を言えば、結果的にどうしても（前の方の席を多く占める）公募聴講者の反応を見つつ喋ることになり、学生諸君に不満を残したのではないかと危惧される。

以上、限界のあったことは否定できないが、本講義を通じて『アメリカのデモクラシー』というテキストの面白さに触れ、政治思想の古典を歴史の文脈において内在的に読むことが現代の問題を考えるヒントにもなると少しでも納得してもらえれば、講義の目的は達成されたことになろう。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター
公開授業

2013 年度前期 比較思想
受講者募集のご案内

当センターでは 2005 年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる公開講座を設置しております。2013 年度は、前期に「比較思想」を開講し、学部学生とともに学外の方々にも公開いたします。

○科目名：「比較思想」 トクヴィルでデモクラシーを考える

○講師：松本 礼二 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

東京大学法学部卒業、同大学院法学政治学研究科博士課程中途退学。東京大学社会科学研究所助手、筑波大学社会科学系専任講師などを経て、早稲田大学教育学部教授。

専攻は西洋政治思想史、特にアレクシ・ド・トクヴィルの政治思想。著書『トクヴィル研究』（東京大学出版会、1991 年）、『近代国家と近代革命の政治思想』（川出良枝と共著、放送大学教育振興会、1997 年）、『トクヴィルで考える』（みすず書房、2011 年）、訳書『アメリカのデモクラシー』第一巻上下、第二巻上下、全 4 冊（岩波文庫）など。

○授業概要

トクヴィル（1805-1859）の『アメリカのデモクラシー』は、刊行（原著は第一巻が 1835 年、第二巻は 1840 年）後、二世紀近くを経て、今日なお、デモクラシーを考えアメリカを論じる際に必ず参照される古典です。本講義は岩波文庫全 4 冊の翻訳を用いてこの著作の内容を解説し、そこからデモクラシーの諸問題を考える材料を引き出すことを目的とします。この著作をトクヴィルの生きた 19 世紀フランスの文脈に位置づけ、この時代にアメリカを論ずることの意味を確かめた上で、その後のデモクラシーの展開、アメリカの変貌を経て、この本が現代に語りかけてくるメッセージは何か。古典をそれが書かれた時代の歴史的な文脈において読むことを通じて、現代の問題を考えるヒントを探ります。

○教材（※授業での理解を深めるためのテキストです）

『アメリカのデモクラシー』（岩波文庫、全 4 冊）。参考書として、松本礼二『トクヴィルで考える』（みすず書房）。

期 間 2013年4月15日～2013年7月22日(4/29は授業なし・全14回)

時 間 毎週 月曜日 2時限目(10:55～12:25)

会 場 東京女子大学 (教室は当日正門付近の掲示板でご案内します)

対 象 原則として18歳以上の男女

定 員 30名

受講料 10,000円

(テキスト代等を含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承下さい。)

【申込方法】 郵送・FAX・Eメールのいずれにてもお申込みいただけます。郵送・FAXの場合は同封の申込用紙にて、Eメールの場合は、お名前(ふりがな)、ご住所、お電話番号、ご年齢、性別、受講動機を明記の上、お申込みください。

【締め切り】 3月15日 金曜日(必着)

【結果通知】 3月末に結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

【受講手続】 受講を認められた方は、結果通知はがき所載の口座に受講料をお振込みの上、結果通知はがきを授業初日に会場にお持ち下さい。

請求・送付先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター事務局
TEL: 03-5382-6817 FAX: 03-5382-6120
月～金・10時～17時(12:00～13:00を除く)
メールアドレス: marubun@lab.twcu.ac.jp

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/index.html>

※授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。